



人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ ＜トヨタ自然共生方針＞

水や大気などの自然の様々な要素が調和し、生物の多様性が保たれることにより私たち人間は、豊かな生活を送ることができます

しかし、気候変動や水不足といった環境課題が、相互に関係しあって深刻化するのに伴い、この自然の調和が崩れ、生物の多様性も失われてきています

現状を改善するために、トヨタは、様々な事業を通じて培った自社技術やノウハウを最大限活用し、人と自然が共生する持続可能な社会の実現をめざします

1. 資源の供給、気候の安定等により、暮らしや経済を支えてくれる自然に感謝し、自然の様々な要素が調和し、生物の多様性を保つための活動を推進します
2. 自ら行動するだけでなく、社会の皆さまとの連携を深めることによって、地域へと活動の輪を広げ、さらに世界へとつなげていきます
3. 豊かな生活の基盤である生物多様性が危機的状況にあるという認識に基づき、従業員や幅広い世代の人々の意識を変革するために環境教育を推進します
同時に、社内外の活動を通じ、関連する情報を社会に提供します

＜自然共生プロジェクト＞

以下の3つの「つなぐ」プロジェクトを推進し、自然と共生する社会の実現をめざします。

Toyota Green Wave Project	様々な自然共生活動を通じて、地域をつなぎ、活動の輪を広げる
Toyota Today for Tomorrow Project	国際機関やNGOと協働した自然共生・生物多様性保全
Toyota ESD Project	従業員や多様な世代に向けた環境教育

＜補足事項＞

自然は、食糧、水、空気といった、私たちが生きるために必要な、多くの恵みを与えてくれます。例えば、自動車の材料となる資源は自然界からもたらされますし、植物は自動車走行時に排出されるCO₂を酸素や有機物に変えてくれます。また、人間も自然の一部であり、私たちの生活は、自然の様々な要素の調和のもとに成り立っています。

しかし近年、気候変動などの影響により、森林減少、生態系バランスの悪化などが生じ、自然環境は危機にあると指摘されています。このような状況の中、トヨタはこれまで培った自分たちの技術ノウハウを用いて自然の様々な要素の調和を取り戻し、ホーム・プラネットに住むすべての人々の持続的発展に貢献したいと考え、2020年に「トヨタ自然共生方針」を定めました。

まず、トヨタはモビリティカンパニーとして、走行時のCO₂発生量の少ない自動車の開発や、自動車生産時のCO₂削減など、自然への負荷が少ない事業活動を進めます。さらに、社会の様々な方と協力して、生物多様性の保全などの“自然共生”活動の輪を、地域から世界へと広げていきます。そして、大人だけでなく、未来を担う学生や子どもも参加できる環境教育プログラムを、世界中で推進しています。

トヨタ自然共生方針について

トヨタは1992年に、環境に対する取り組み方針を「トヨタ地球環境憲章（2000年改定）」として定めました。そして、SDGs*が国連で採択され、COP21**でパリ合意が行われた2015年には、「トヨタ地球環境憲章」の考え方をふまえて、6つのチャレンジからなる「トヨタ環境チャレンジ2050」を発表しました。その一つである「人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ」を通し、トヨタは、自然共生の活動の輪を地域・世界とつなぎ、そして未来へつなぐ取り組みを行っています。

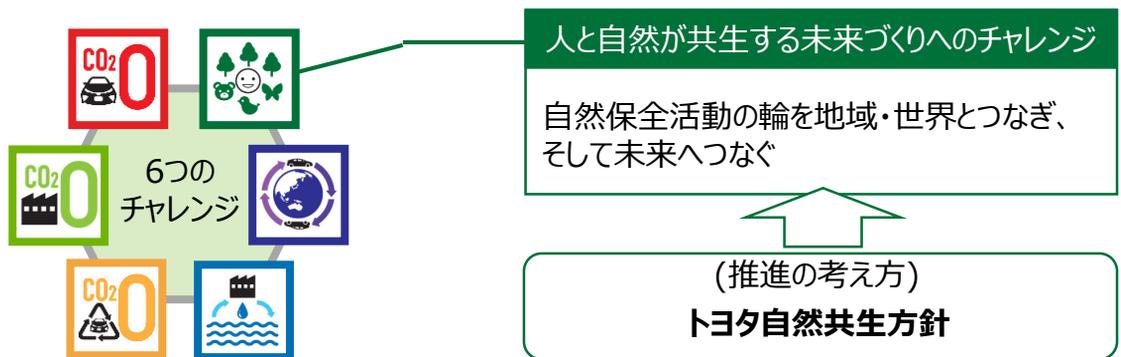
トヨタはこれまで、2008年に策定された「生物多様性ガイドライン」に沿う取り組みを進めてきました。今回、同ガイドラインの考え方を受け継ぎつつ、これをより大きな概念である自然へと広げ「トヨタ自然共生方針」として刷新。この方針は、トヨタが「人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ」の取り組みを推進するにあたっての考え方を示すものです。トヨタはこれからも、お客様の笑顔と幸せがあふれる「いい町・いい社会づくり」にむけて、チャレンジし続けます。

* SDGs: Sustainable Development Goals「持続可能な開発のための目標」

**COP21: 国連気候変動枠組条約第21回締約国会議

<方針の位置づけ>

トヨタ環境チャレンジ2050のひとつである「人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ」の取り組みを推進するにあたっての考え方を示すもの



<この取り組みを通じて特に貢献可能なSDGsの目標>

取組を通じて特に貢献できるものとして、ここでは2つの項目を挙げています。しかし、私たちの取り組みは、他のSDGs目標とも深く関連し、その達成に貢献するものだと考えています。

